

## 研究主題「児童のコミュニケーション能力を高める指導法 - 活動形態や活動の組み立て方を工夫して - 」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
東京都文京区立誠之小学校 教諭 榊原 絵葉

### 研究のねらい

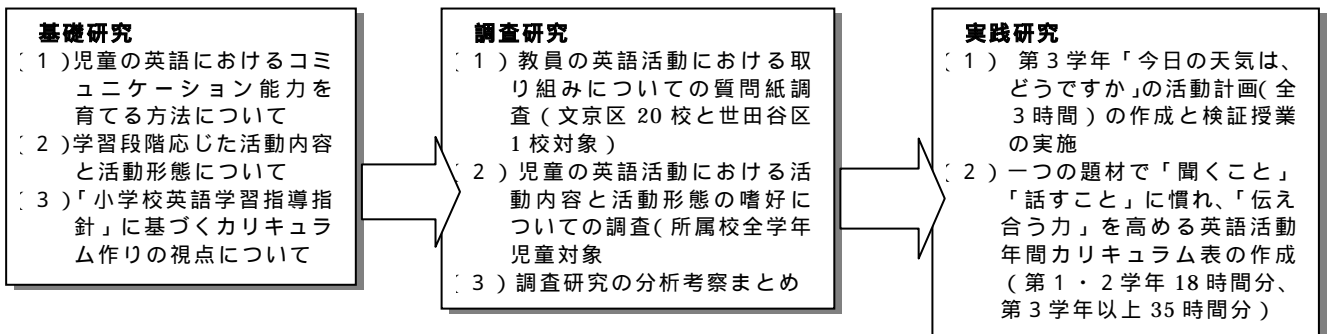
「小学校英語活動実践の手引」にある「英語活動」のねらいにおいて、コミュニケーション能力を育てるために英語に対する興味・関心や意欲を育成することが強調されている。また、言語を習得する過程で、「聞くこと」「話すこと」を通して「伝え合う力」が培われていくと言われている。本校の「英語活動に関するアンケート」からも、英語を話すことを難しいと感じる、児童相互の会話のやり取りになりにくい（昨年の第3学年対象）などの現状が分かった。

そこで、本研究では、児童の「伝え合う力」を高めるために、一つの題材で活動内容の組み立てを工夫していくことが、児童のコミュニケーション能力を高めることにつながると考えた。具体的には、「聞くこと」「話すこと」に十分親しませた後でその内容を活用していくようにすれば、自信をもって「伝え合う」ことにつながると考え、活動内容を組み立てていく。また、活動の形態も考慮して児童が互いに話しやすいと感じられるような場も設定していく。

### 研究の内容と方法

#### 研究仮説

一つの題材で活動形態や活動の組み立て方を工夫していけば、児童のコミュニケーション能力を高めることにつながるだろう。



#### 1 基礎研究・先行研究

##### (1) 児童の英語におけるコミュニケーション能力を育てる方法

小学校では、学んだ英語表現を使う場面があり、日常生活に応用できるものであるならばコミュニケーション能力を高める生きた英語へと変化するとされている。活動内容を考える時に学んだ表現を使っただけのやり取りが成り立つ題材を考えていく必要がある。

##### (2) 学習段階に応じた活動と活動形態

学習の初期の段階では、なるべく「聞き取り型の活動」を大切にする。徐々に「発話型の活動」も増やしていき、最終的には「対話型の活動」が成り立つように学習内容を変化させる。活動形態においても、英語表現に慣れないうちは、クラス全体での活動にして、グループ、ペア、個人という風に段階を変えて各活動に参加できるように配慮する必要がある。

これらのことを踏まえて、活動内容の中で「聞くこと」「話すこと」の比重を少しずつ変えながら、「聞いたり話したりすること」につながる活動内容を考えていく。

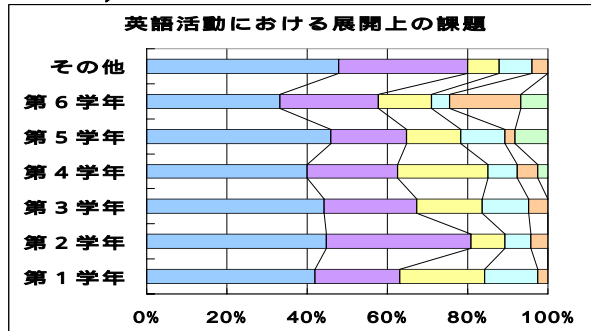
## 2 調査研究

### (1) 教員の指導展開上の課題把握

英語活動の指導について教員の課題意識を把握する目的で、平成 18 年 6 月に東京都公立小学校教員 400 名（文京区・世田谷区）を対象に、調査を実施した。（回収数 145 枚）

その結果、どの学年の教員も「児童同士が英語でかかわる方法」が最も困難と感じていることが分かった。次に、「英語活動に必要な会話の進め方」が続いており、英語活動の指導を進める上で「かかわり」と「会話」の扱い方が特に難しいと考えられる。また、その具体的な内容として、低学年では、すぐ日本語を使ってしまう、集団では難しい等の意見があった。高学年では、個人差が大きくなり、恥ずかしさもあってかかわれなくなるなどの意見があった。（補助資料 1 参照）

児童同士が英語でかかわる方法  
英語活動に必要な会話の進め方  
英語活動に必要な言葉の取り上げ方  
英語を使うゲームの取り入れ方  
英語の歌やチャンツの使い方  
その他



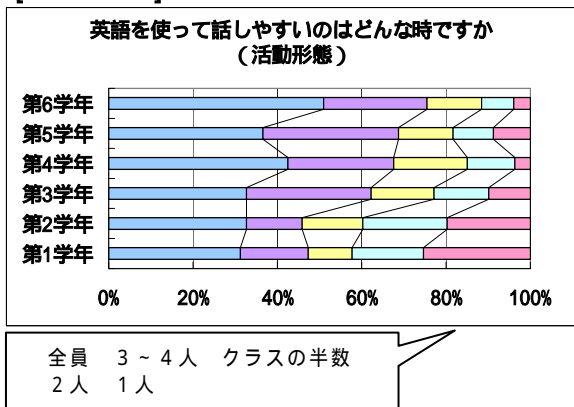
【グラフ 1】

調査内容の一例

### (2) 児童が好む活動形態の把握

次に、児童が英語を使って話しやすい活動形態の嗜好を把握する目的で、平成 18 年 6 月に所属校児童 830 名を対象に、調査を実施した。（回収数 788 名）

【グラフ 2】 調査内容の一例



その結果、どの学年でも「全員」で話す時が一番話しやすいと感じていることが分かった。また、発達段階上の傾向として、低学年では、「1人」で話すときも好む。中学年以降では、「グループ」で話す時も好むが、「1人」で話す時はあまり好まなくなっていくことが分かった。

以上のことを踏まえ、本研究では活動内容の中に「かかわり」や「会話」を意識できる内容を取り入れながら、一人一人が話しやすい活動形態も考慮した活動を考えていく。

## 3 検証授業

### (1) 検証授業のねらい

児童同士が自信をもって言葉のやり取りをできるようにするためには、まず表現に十分慣れ、その表現を使えるようにすることが不可欠である。そこで、今回の検証授業では、全 3 時間のうち、最初の 2 時間は表現に慣れる活動を多く取り入れ、最後の時間で児童同士が十分やり取りをできるようにした。具体的には、まず言語材料に自然に慣れるためにジェスチャーを付けて歌える簡単な歌やチャンツ（リズムによって英語の単語や短い文をリピートする活動）を毎回行った。また、活動の最初と最後に題材に関する簡単な会話のやり取りを行い、活動を振り返りやすくするようにした。

## (2) 活動プランの組み立ての考え方

どの時間においても全体からグループ、ペアという活動形態をとり、始めは「聞き取り型」「発話型」の活動を多くし、「対話型」の活動に移行していくというプランを作成した。

(補助資料2 参照)

第3学年 単元「今日の天気はどうか」(全3時間)

	活動内容	1時間目	2時間目	3時間目
導入	天気を尋ねる会話			
	歌「How's the weather?」	A	B	B
展開	チャンツ「Weather Chant」	B	A	B
	ウェザーコールゲーム	AとB		
	物語	「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しむ活動	B	
	マッチングゲーム		AとB	
	インタビューゲーム			AとB
インタビューゲーム			C	
まとめ	天気を尋ねる会話			

「聞き取り型」+「発話型」の活動から → 「対話型」の活動へ

Aは「聞き取り型」、Bは「発話型」、Cは「対話型」を表す。は、実施したことを表す。

## (3) 活動内容の見取り方

それぞれの活動内容で児童が「聞くこと」「話すこと」「聞いたり話したりすること」についてどのようであったかを把握し、次時の活動にいかしていくために、教員向けに「英語活動観察シート」と「児童個人評価表」(補助資料3 参照)、児童向けに「英語活動振り返りカード」を作成した。

### <教員向け>

英語活動観察シート (6月19日) 3年組 学級

(本時のねらい)  
天気を尋ねる方法を学び、「How's the weather?」「It's sunny」の表現に慣れる。

学習活動	活動内容について	活動形態について	その他の気づいたこと (時間配分や子どもたちの様子など)
「Where is Kimchi from?」「It's from Korea.」(1回目)	「金曜のやりとりを復習する」活動。	対面	
J How's the weather (1回目)	「聞く」「話す」を習慣化する活動。	対面 対面	児童の様子について気付いたことを記述する
J Weather (1回目)	活動内容にねらいを明示する。上記の「聞き取り型」「発話型」「対話型」などの区別がつくようにする	対面	
Weather C			活動内容と形態で児童の反応がよい場合は、よくない場合で表す
J How's the weather			
「How's the weather, today?」「It's...」	「復習を繰り返す」活動。	対面	

活動を細かく分ける

活動内容にねらいを明示する。上記の「聞き取り型」「発話型」「対話型」などの区別がつくようにする

活動内容と形態で児童の反応がよい場合は、よくない場合で表す

活動内容ごとに児童の反応や児童の様子を書き留め、次時の活動にいかすようにした。児童の実態と照合しやすくなる。

### <児童向け>

<英語活動振り返りカード>  
3年組 名前( )

7月3日(月)	☆ よくできた	☆ まじしできた	☆ あまりよくできた	☆ できた
英語ではじめのあいさつをした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語のチャンツができた。(2回目)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
先生たちとインタビューゲームができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友だちといたびゅーゲームができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
天気の歌が英語で歌えた。(2回目)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
外国の天気を英語で答えられた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

それぞれの活動について4段階で振り返る

児童が楽しくできた活動の具体的内容を記述する

児童ができたことを中心に認め、励ます

先生からひとこと  
インタビューゲームでよく天気までいかりったえつてくれたのをよくね、まかにチャンツもあつたのでおめでとう！

活動内容ごとに分け、記述欄を設けることで、児童が活動を振り返りやすくなった。児童自身が次時のめあてをもちやすくなる。

## 研究の結果と考察

### 1 検証授業 教師側から見た活動内容から

「英語活動観察シート」から、グループ規模のゲーム活動で児童の参加状況がよくなったことが分かった。3時間目の「インタビューゲーム」では、「すすんで友達にインタビューをしていた」という意見もあった。また、歌やチャンツについては、「リズムやジェスチャーを楽しんだ」から「慣れてきたので大きな声が出るようになり、歌も自信をもって歌っていた」という意見に変わってきた。

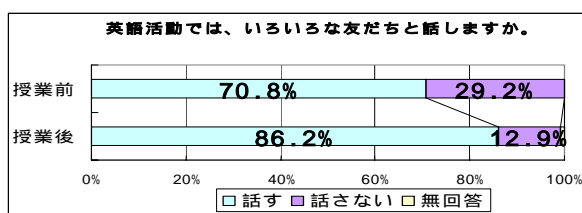
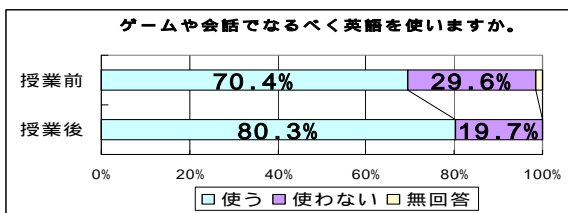
今日の活動の中から、どんなことが楽しくできたかを書きましょう。  
(英語活動振り返りカード参照)

### 2 検証授業 児童側から見た活動内容から

	6月19日(月)	6月22日(月)	7月3日(月)
A児	歌	4番目の 楽しいから。	外国の天気を英語で答えられた。
B児	ゲーム	マッチングゲームでいっぱい合ったのでおもしろかった。	英語のあいさつがうまく言えた。それとインタビューゲームがうまくできた。
C児	「英語でたくさんの友だちと話した」がよくできた。	英語のお話がサニーとかだけいえた。	英語のチャンツをもっとがんばる。外国の天気を言うところが楽しかった。
D児	天気のゲーム	天気の歌が気に入った。お話の意味を想像するのはとてもとくいだから楽しいお話だった。さいごに結婚するってということもわかった。	新しいカードがふえてさらにやる気ができました。外国が好きなのでよく発音がうまく言えて楽しかった。
E児	あまり英語で話せなかったけど、楽しかった。	天気の歌がわかりやすく言えたから楽しくなった。	はじめのあいさつで大きな声が出せたからよかった。言いづらかったことは、一回もなかった。

活動内容ごとに振り返るようにしたことで、児童の感想が具体的になり、活動内容のどのような部分が自分にとって楽しいか、できたのかといった点についても記述できるようになってきた。自信をもって言えたことが楽しいという感想も多い。また、児童の反応からその時間の活動内容が児童にとって適切であったかが判別しやすくなった。

### 3 検証授業前(6月)と検証授業後(9月)にとったアンケートの分析から



【グラフ3】 調査内容の一例

【グラフ4】 調査内容の一例

検証授業前後の調査から、「英語を使うこと」について「使う」と回答した児童が9.9%、「英語でのやり取り」について「できた」と回答した児童が15.9%共に増加したことから、児童同士の会話が成り立つようになってきたと言える。その他の「英語に慣れること」「英語を楽しむこと」についても「できた」と回答した児童が9%以上増えていた。(補助資料4 参照)

以上のことから、英語を使うことが増えると、英語でのやり取りもできたと感じられることが多くなり、「人とのかかわり」の機会も増えていくと考えられる。

#### 今後の課題

これからの英語活動で、短くても児童同士が自信をもって「会話のやり取りができた」と感じられるようにするには、今後も継続して教員と児童の両面から「人とのかかわり」についての変容を見ていく必要がある。また、児童同士が相手のことを「聞いてみたい」「伝えたい」と思える場面設定が、作成した年間指導計画の中で適切であったのか、今後も授業を行いながら、随時見直しを図っていきたい。

## 1 教員アンケートによる「英語活動の授業の展開の中で困難を感じる内容」(学年別) より一部抜粋

	必要な会話の進め方	児童同士がかかわる方法
第1学年	・単語なら言えても文になると言えない。	・子どもだけになると日本語になっている。 ・個別にかかると評価や援助がしやすいが、集団では活動していると難しい。
第2学年		・使う言葉が分かっていない。
第3学年		・恥ずかしがって使えない。 ・子どもの発音では分かりづらい時がある。 ・会話の言葉を十分に覚えていないまま会話をしている。 ・個人差が大きい。
第4学年	・会話にするには人数が多く感じる。 (24人でも) ・会話に必要なセンテンスを練習しても覚えられない子が多い。	・子どもたち同士だとイニシアチブを取れる子がいないと恥ずかしがって声が小さくなり、最後にはじゃれあって終わってしまう。 ・日本語を使ってしまう。
第5学年	・会話に慣れていないため、どうしても小さな声になってしまう子が多い。	
第6学年	・ターゲットとなる会話は、何を基準に決めたらよいか分からない。 ・何度も聞かないとうまにならないのだが、活動が単調になり、子どもが飽きてくる。 ・事前に反復して定着させておかないと、児童が自信をもてない。	・照れもあり、なかなかかかわれない子が多い。 ・英語を習っている子と習っていない子との差が大きい。 ・発音に自信がなく、声が小さくなる。
その他		・苦手な子、恥ずかしがりやな子などは、難しい。

その他は、学級担任以外の教員を表す。

### 考察

低学年と高学年では多少異なるが、英語で会話をする事、児童同士がかかわることでの課題を挙げる意見が多かった。児童同士の会話を考える時、低学年では単語で、高学年では文でのやりとりでというように軽重を付けてもよいと考える。また、英語で話すことを恥ずかしがる児童への手だてを授業の中で考えていく必要がある。

## 2 第3学年 年間指導計画の具体例より一部抜粋

検証授業の単元

単元	1	2	3	4
<b>題材</b>	あいさつ・紹介	時・日・週・月・季節	体・天気・気分	学校生活
<b>テーマ</b>	はじめまして	今、何時ですか	今日の天気はどうですか	鉛筆を持っていますか
<b>活動のねらい</b> <small>題材に必要な言語になれる活動 新たな表現を付け加えたり、簡単なやり取りをする活動 身に付けた表現を使ってやり取りをする活動</small>	初対面の人とのあいさつの表現に慣れる 出身地を尋ねる表現に慣れる	時刻を表す表現に慣れる 国を表す言葉に慣れる 外国の時刻を尋ねたり、答えたりする表現に慣れる	天気を表す言葉に慣れる 気候を表す言葉に慣れる 外国の天気を尋ねたり、答えたりする表現に慣れる	文房具を表す言葉に慣れる 持ち物を尋ねたり、答えたりする表現に慣れる 持ち物に関するやり取りの表現に慣れる
<b>活動内容</b> <small>上記のねらいに即した内容になるようにした。</small>	自己紹介ゲーム 名刺交換ゲーム	クロックバスケット 国旗ジャンケンゲーム インタビューゲーム	ウェザーコールゲーム マッチングゲーム インタビューゲーム	伝言ゲーム ゲット・ザ・カードゲーム 落とし物探しゲーム
<b>活動形態</b> <small>活動内容ごとの人数を記すようにした。</small>	半数 ペア	全体 グループ ペア	グループ グループ ペア	グループ ペア ペア
<b>言語材料</b>	Nice to meet you. Nice to meet you, too. My name is A. I am from Hakusan.	What time is it ? It's 3 o'clock. Korea, UK, USA Japan, Australia, China What time is it in USA ? It's 10 o'clock.	sunny, cloudy, rainy, windy, snowy hot, warm, cool, cold How's the weather in UK ? It's cloudy. It's warm.	crayon, glue, ruler, scissors, pencil, eraser Do you have a pencil ? Yes, I do. Do you have a pencil ? Yes, I do. What color ? It's green.
<b>教材・教具</b> <small>主に題材の言語材料に親しめるような歌やチャンツを取り上げるようにした。</small>	ボール 学区地図・名刺  Hello	時計カード 国旗・絵カード インタビューシート What Time Is It ?	天気カード 気候カード インタビューシート How's The Weather ? Weather Chant	文房具カード 文房具カード (無色) 文具(実物) Do You Have A Pencil Case ?

3 教員側評価資料その2 (観察児用)

児童個人評価表

3年組 学級

Name	6月26日(月)		7月3日(月)	
H (気付いたこと) ↓	お話 ○	チャンツ	チャンツ	インタビュー ゲームI 最初は口が しかなかった 最後は出した
観察児の様子について 気付いたことを記入する欄 を設けた。	マッチング ゲーム ○	歌		歌 coldの24 を1777
J (気付いたこと) ↓	お話 ○	チャンツ		インタビュー ゲームI 声を出して いない
歌で聞こえたことを 手の上に書いて発表 しようとしていた。	マッチング ゲーム ○	歌	インタビュー ゲームII HRTIの結果を 伝えている	歌

活動内容ごとに様子が見取れるようにした。また、児童の反応が顕著な場合のみ印をつけるようにして、短時間で記録できるようにした。

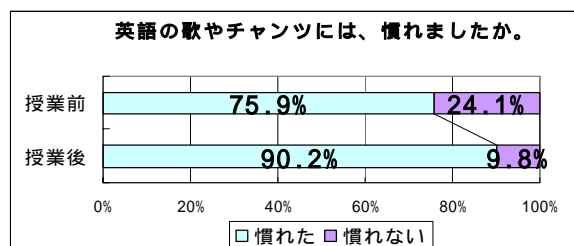
それぞれの活動について観察していただき、特によいと思われる時は、あまりよくないと思われる時は を枠の中につけてください。それ以外の時に、記号はいりません。また、「気付いたこと」の下の欄に見取れたことを簡単にお書きください。

見ていただく観点は、関心・意欲・態度、参加状況(聞く・話すに関して)、コミュニケーションについて(先生・ボランティアの方・友達と会話のやり取りになっているかどうか)です。

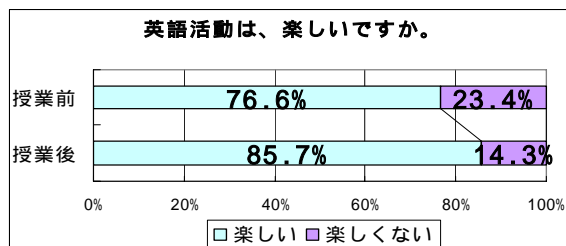
観察児童について上記の3点で変容を記すようにする。

#### 4 事前アンケート（検証授業1週間前）・事後アンケート（検証授業1ヶ月後）の変容

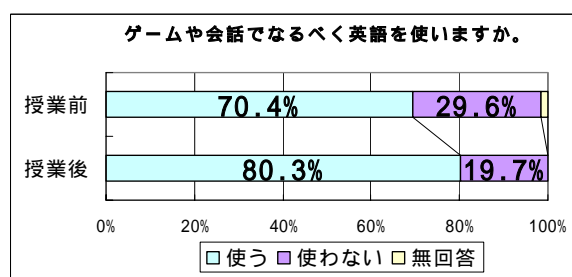
[グラフ 1]



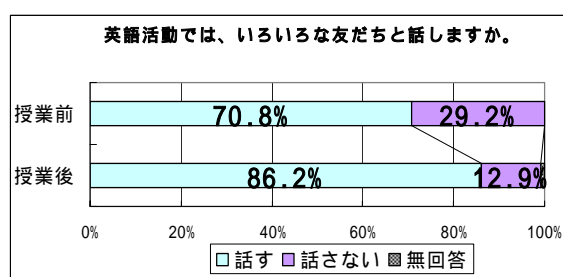
[グラフ 2]



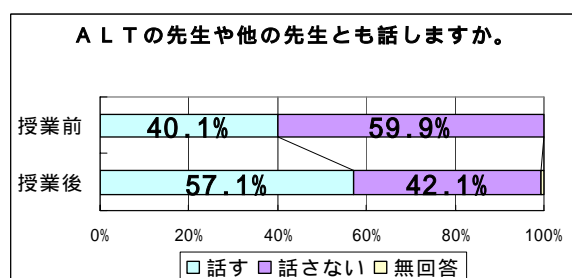
[グラフ 3]



[グラフ 4]



[グラフ 5]



#### 考察

特にグラフ5の「ALTの先生や他の先生と話すようになりますか」という項目での変容が大きかった。活動の始めや終わりにALTの先生や他の先生とのやり取りを行っていたことが、印象に残ったのかもしれない。続いて、グラフ4「英語活動では、いろいろな友達と話しますか」、グラフ2「歌やチャンツには、慣れましたか」グラフ3「ゲームや会話でなるべく英語を使いますか」グラフ1「英語活動は、楽しいですか」という項目についても授業後の方がよくなったと回答した児童が増加しており、いろいろな人とかかわりながら話すことを意識していたことがうかがえる。

テーマに関する言葉を聞き取れるようになったか、話せるようになったか、友達に習った表現を使って話すようにしたか、友達の言っていることを聞いて分かったかということを書き記した「ふり返しカード」を元に児童の変容を探ることができた。